ISSN 2187-4859

歴史言語学

Historical Linguistics in Japan

2021年12月第10号

発行—日本歴史言語学会

『歴史言語学』第10号の発刊に寄せて

日本歴史言語学会会長
上野　貴史

ここに、『歴史言語学』第10号を皆様にお届けする運びとなりましたことを、心から嬉しく思います。一昨年から続いておりますコロナ禍の中ではありますが、ようやく学会誌が発行できる運びになったのは、ひとえに、会員の皆様、そして運営を担当していただいている理事の皆様のご尽力のおかげと、心より感謝致しております。

『歴史言語学』第10号におきましては、英語使役動詞 make における to 不定詞補文の衰退に関する研究と、後期古英語 Wulfstan の作品における「法」関連語彙の通時的変化、といった二本の研究論文と、2021年10月９日に開催されました「日本歴史言語学会 創設10周年記念特別講演会」での菅田茂昭先生の講演内容「ロマンス言語学の課題」と、それに関連する菅田茂昭著『ロマンス言語学概論』の書評が収められております。ご寄稿くださった方々並びに編集委員会の方々のご尽力に心から深謝申し上げます。

2020年から分不相応でありながら着任した会長職ではありましたが、ようやくその任期を終えることになりました。ここで、２年前に発足した現理事会での業務を振り返ってみますと、新型コロナウイルスの蔓延に始まり、その対応で悪戦苦闘したという、新型コロナウイルスに翻弄された２年間であったように思えます。2020年大会は、予定していた創設10周年記念講演会を延期すると共に、通常大会を１日に短縮しての遠隔開催となりました。2021年になりましてもコロナ禍は収まることを知らず、通常大会と記念講演会を分けて開催するということで、ようやく大会を無事に終えることができました。このような中で、菅田茂昭先生と柴谷方良先生をお迎えし、記念講演会を成功に導けたことは現理事会の自信にもなりました。遠隔開催という悪条件の中、快くご講演をお引き受け頂いた両先生には感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。菅田先生のご講演内容は、本号『歴史言語学』第10号に掲載されております。また、柴谷方良先生のご講演内容は、次号『歴史言語学』第11号に掲載予定です。もう一度講演内容をしっかり見直したい方や講演会に参加できなかった会員の皆様にご一読頂ければ幸いです。

『歴史言語学』が分野や領域の枠を超えた研究交流を行う重要な機能を果たす場として、また、さらに日本歴史言語学会が発展していくためにも、今後とも会員の皆様からの積極的かつ多様なご投稿をお待ちしております。

2021年12月吉日
安芸の広島にて

日本歴史言語学会
Japan Society for Historical Linguistics

December 2021
2021年12月

『歴史言語学』
Historical Linguistics in Japan

第 10 号

目　次 ／　Contents

ごあいさつ ..... 上野 貴史 i
目　次 iii
前号目次 iv

研究論文

英訳聖書における使役動詞 make の不定詞補文の分布と make NP to-Inf の衰退要因 ..... 村岡 宗一郎 1 - 24
後期古英語期の聖職者 Wulfstan による「法」に関する語彙の使用とその変化 ..... 小河　舜 25 - 52

書評

菅田 茂昭 著『ロマンス言語学概論』 ..... 上野 貴史 53 - 61

創設10周年記念特別講演会

創設10周年記念特別講演会について 63
ロマンス言語学の課題 ..... 菅田 茂昭 65 - 82

2020年大会 研究発表要旨 83
彙報・会計報告 95
会則・規定 99
投稿用レイアウト例 108
日本歴史言語学会役員等一覧（2021年度） 112
日本歴史言語学会からのお知らせ 112